

令和4年度厚生労働科学研究費補助金
障害者政策総合研究事業

障害福祉サービス等における
高次脳機能障害者の支援困難度の
評価指標についての研究

令和4年度 総括研究報告書

研究代表者 深津 玲子

令和5年（2023）年 3月

目 次

I.	総括研究報告 障害福祉サービス等における高次脳機能障害者の支援困難度の評価指標についての 研究.....	1
	国立障害者リハビリテーションセンター 深津 玲子	
II.	研究成果の刊行に関する一覧表.....	5
III.	付録 支援困難評価表.....	7

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総括研究報告書

障害福祉サービス等における高次脳機能障害者の支援困難度の評価指標についての研究

研究代表者

深津 玲子：国立障害者リハビリテーションセンター 顧問

研究要旨

本研究は、高次脳機能障害のうち特に社会的行動障害により地域移行あるいは地域生活継続に困難のある事例が現行のサービスを適切に利用できるために、評価指標を検討・作成し、その指標の検証を行い、新たな支援困難度評価を提案することを目的とする。

令和4年度は、1) 支援困難度評価表案の作成；知的障害児・自閉症児を対象とした強度行動障害判定基準、認知症高齢者を対象とした日常生活自立度判定基準、Neuropsychiatric inventory、Zarit 介護負担尺度などの評価尺度等を基に、評価項目の検討を行い、現行の障害者支援区分認定調査項目のうち行動障害に関連する34項目に新たに9項目を加え43項目とした。各項目を4つの評価軸、「必要な支援の頻度」「重症度」「介護負担度」「介入による変化」について評価をする表を作成した。

2) 1)の支援困難度評価表を用いて高次脳機能障害者の支援者による評価データの収集；障害福祉サービス等を提供している6事業所で、高次脳機能障害と診断された利用者1名について、利用者の状況をよく把握している支援者（専門職）2名が、利用記録等に基づき評価。令和4年度末までに101事例（支援者2名で評価95事例、1名で評価6事例）のデータを収集した。

令和5年度に収集したデータについて分析を進め、支援困難度評価表の信頼性・妥当性の検討、現行の障害者支援区分との相関などについて検討する。

研究分担者

鈴木智敦：名古屋市総合リハビリテーションセンター 副センター長

數井裕光：高知大学 教授/日本高次脳機能障害学会 理事

川上寿一：滋賀県高島健康福祉事務所 所長/滋賀県立リハビリテーションセンター 所長

小西川梨紗：社会福祉法人グロー滋賀県高次脳機能障害支援センター 相談支援員

今橋久美子：国立障害者リハビリテーションセンター研究所 室長

研究協力者

日詰正文：国立重度知的障害者総合施設のぞみの園事業企画局研究部部長

片岡保憲：日本高次脳機能障害友の会 理事長

石森伸吾：国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 主任

和田愛祐美：国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 専門職

A. 研究目的

「障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて（令和3年12月16日）」の中で、障害者の居住に関して、サービスの質の向上・確保等の観点から、支援体制検討の必要性が提言された。令和3年度報酬改定における重度障害者支援加算の拡充等も施行されている。一方でこれらの制度を利用できない高次脳機能障害

者、特に社会的行動障害により地域移行あるいは地域生活継続に困難のある事例が少なからず存在することが指摘されてきた。

令和2年度障害者総合福祉推進事業「高次脳機能障害者のグループホーム等を活用した住まいの支援の実態についての調査研究」において、高次脳機能障害であって日常生活上の支援に困難のある者であっても、共同生活援助の重度障害者支援加算の要件を満たさない実態があることが把握され、同研究事業の検討委員会では、高次脳機能障害の支援困難度を適正に評価できる指標が必要との意見があった。

高次脳機能障害の支援困難度を適正に評価できる指標の開発は喫緊の課題である。本研究は、高次脳機能障害のうち特に支援上の困難となる社会的行動障害の評価指標を作成し、その指標の検証を行い、新たな支援困難度評価を提案することを目的とする。

B. 研究方法

1) 高次脳機能障害、認知症、強度行動障害等の支援における専門家によって構成された研究班で、現行の障害支援区分認定調査項目中活用できる項目の特定、その他追加項目を検討し、新たな支援困難度評価表案を作成。

2) 1)の評価表を用いて、障害福祉サービス等を提供している6事業所で、高次脳機能障害と診断された利用者1名について、利用者の状況をよく把握している支援者（専門職）2名が、利用記録等に基づき評価。

3) 2)で収集した支援困難度評価表の評価と現行の障害支援区分との関連を調査。同じケースを2人の専門職が別々に評価した結果をもとに、同評価の信頼性を検証し、類似尺度である「脳外傷者の認知－行動障害尺度(TBI-31)」のデータと今回の評価との相関分析により妥当性を検証。

(倫理面への配慮)

評価は支援に従事する専門職が回答し、利用

者の個人情報を取り扱わない。また評価を実施する事業所はWEBサイト等にてオプトアウト説明書を示す。研究は国立障害者リハビリテーションセンターおよび所属機関の倫理審査委員会の承認を得たうえで行う。

C. 研究結果

1) 支援困難度評価表案の作成；知的障害児・自閉症児を対象とした強度行動障害判定基準、認知症高齢者を対象とした日常生活自立度判定基準など、行政的に用いられている評価項目に加え、Neuropsychiatric inventory、Zarit 介護負担尺度など国際的に広く用いられている評価尺度等を基に、評価項目の検討を行い、現行の障害者支援区分認定調査項目のうち行動障害に関連する34項目に新たに9項目を加え43項目とした。43項目を4つの評価軸、「必要な支援の頻度（支援が不要、まれに支援が必要、月に1回以上支援が必要、週に1回以上の支援が必要、週に5日以上支援が必要、の5段階）」「重症度；本人への影響（なし、軽度、中等度、重度、の4段階）」「介護負担度；周囲への影響（まったくなし、軽度、中等度、重度、の4段階）」「介入による変化（介入が不要、どのような人の介入でも一定の変化がみられる、特定の人の介入で変化がみられる、どのような人の介入でも変化が見られない、の4段階）」について評価する表を作成した。評価43項目については表1のとおり。巻末に作成した支援困難度評価表を掲載した。

表 1. 評価 43 項目

障害支援区分認定調査項目	
4-1	被害的・拒否的
4-2	作話
4-3	感情が不安定
4-4	昼夜逆転
4-5	暴言暴行
4-6	同じ話をする
4-7	大声・奇声を出す
4-8	支援の拒否
4-9	徘徊
4-10	落ち着きがない
4-11	外出して戻れない
4-12	1人で出たがる
4-13	収集癖
4-14	物や衣類を壊す
4-15	不潔行為
4-16	異食行動
4-17	ひどい物忘れ
4-18	こだわり
4-19	多動・行動停止
4-20	不安定な行動
4-21	自らを傷つける行為
4-22	他人を傷つける行為
4-23	不適切な行為
4-24	突発的な行動
4-25	過食・反すう等
4-26	そう鬱状態
4-27	反復的行動
4-28	対人面の不安緊張
4-29	意欲が乏しい
4-30	話がまとまらない
4-31	集中力が続かない
4-32	自己の過大評価
4-33	集団への不適応
4-34	多飲水・過飲水
追加 1	無計画にお金を使う。(生活費や長期的なお金の管理をしない・できない。)
追加 2	借金をする。家族・知人にお金を無心する・要求することをくりかえす。
追加 3	子どもっぽくなり、年齢にそぐわない甘えや依存がある。
追加 4	自己中心的、口先ばかりで行動を伴わない。
追加 5	万引きする、盗む。
追加 6	他家や敷地に許可なく入り込む。
追加 7	止められているのに運転する、衝動的に行動するなどして危険を顧みない。
追加 8	マナーの悪い人や日常の他者の行動に、執拗に抗議や修正を求めたり、追いかけてまわしたりする。
追加 9	食べない。(例：こだわりが強く特定のものしか食べない、意欲低下により一日一食しか食べない。)

2) 1)の支援困難度評価表を用いて高次脳機能障害者の支援者による評価データの収集；令和4年度末までに101事例（支援者2名で評価95事例、1名で評価6事例）のデータを収集した。

3) 2)で収集したデータの解析；途中経過として、令和4年12月までに収集した事例（支援者2名で評価45事例、1名で評価10事例）データについて、「介護負担度」と「介入による変化」の各項目評価を、0×人数+1×人数+2×人数+3×人数で重みづけした得点を算出し、介護負担度が大きい項目は「こだわり」

「感情が不安定」「話がまとまらない」「ひどい物忘れ」「自己の過大評価」であった。また、これらの項目は介入による変化がほとんど見られない項目でもあった。一方、障害支援区分との相関関係が弱い項目は、「過剰な正義感」「自らを傷つける行為」「万引き、盗み」「自己の過大評価」「不安定な行動」であり、これら項目は現行の認定調査でとらえにくいことが示唆された。令和5年度に収集した101事例についてデータ解析を進めるとともに、信頼性・妥当性の検討も行う。

D. 考察・結論

1) 達成度について

当初研究計画書では4年度までに支援困難度評価表を作成し、5年度にデータ収集としていたが、前倒しに開始し4年度末までに目標である100事例のデータ収集を終了した。目標以上の達成である。

2) 研究成果の学術的意義について

本研究は、高次脳機能障害に認知症、強度行動障害等他分野の知見も取り入れる分野横断型の取り組みであり、高次脳機能障害者の支援困難度を多角的にとらえ、社会への還元を目指す試みである。

3) 研究成果の行政的意義について

高次脳機能障害の支援困難度を適正に評価できる指標を開発し、家庭や社会での生活が困難な者が、適切な支援を十分に受けられる体制構築に寄与する。

4) その他特記すべき事項について なし

F. 健康危険情報 特になし

G. 研究発表

・論文発表

1. 数井裕光, 前頭側頭葉変性症, 今日の治療指針 2023年版. 医学書院, 1027-1029, 2023

2. 今橋久美子, 深津玲子, 武澤信夫, 辻野精一, 島田司巳, 上田敬太, 小泉英貴, 小西川梨紗, 川上寿一, 森本茂, 河地睦美, 納谷敦夫, 中島八十一. 社会的行動障害により在宅生活が困難になる要因の検討. 高次脳機能研究, 259-465, 2022
3. 檜林哲雄, 數井裕光, BPSD (妄想、幻視などの精神症状) と老年期精神障害の関係性について. 老年精神医学雑誌, 33, 929-939, 2022
4. 數井裕光, アルツハイマー型認知症患者と家族に対する認知症治療薬投与時の説明. 臨床精神薬理, 25, 1213-1221, 2022
5. 藤戸良子, 數井裕光, 薬物療法. 臨床雑誌内科, 129, 1287-1290, 2022
6. 數井裕光, 若年性アルツハイマー病. 精神医学, 64, 737-741, 2022
7. 藤戸良子, 永倉和希, 上村直人, 數井裕光, 認知症の行動・心理症状 (BPSD) の予防と治療の方針—ウェブサイトで蓄積された知見も活用しながら. 公衆衛生, 86, 879-885, 2022
8. 數井裕光, 早期診断での連携: 専門医の立場から. 老年精神医学雑誌, 34, 増刊号, 29-36, 2023
9. 數井裕光, BPSD の予防を見据えた早期医療介入. CLINICIAN, 70, 195-201, 2023

・学会発表

1. 深津玲子, 高次脳機能障害の診断にかかる経緯と現状, 第41回日本精神科診断学会, オンライン, 2022/09/10.
2. 今橋久美子, 深津玲子. 高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者の養成. 第46回日本高次脳機能障害学会学術総会, 山形, 2022/12/3.

H. 知的財産権の出願・取得状況 なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
數井裕光	前頭側頭葉変性症	福井次矢、高木誠、小室一成	今日の治療指針 2023年版	医学書院	東京	2023	1027-1029

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
今橋久美子、深津玲子、武澤信夫、辻野精一、島田司巳、上田敬太、小泉英貴、小西川梨紗、川上寿一、森本茂、河地睦美、納谷敦夫、中島八十一	社会的行動障害により在宅生活が困難になる要因の検討	高次脳機能研究	42 巻 4 号	459-465	2022
榎林哲雄、數井裕光	BPSD (妄想、幻視などの精神症状) と老年期精神障害の関係性について	老年精神医学雑誌	33	929-939	2022
數井裕光	アルツハイマー型認知症患者と家族に対する認知症治療薬投与時の説明	臨床精神薬理	25	1213-1221	2022
藤戸良子、數井裕光	薬物療法	臨床雑誌内科	129	1287-1290	2022
數井裕光	若年性アルツハイマー病	精神医学	64	737-741	2022
藤戸良子、永倉和希、上村直人、數井裕光	認知症の行動・心理症状 (BPSD) の予防と治療の方針—ウェブサイトで蓄積された知見も活用しながら	公衆衛生	86	879-885	2022
數井裕光	早期診断での連携：専門医の立場から	老年精神医学雑誌	34 増刊号	29-36	2023
數井裕光	BPSD の予防を見据えた早期医療介入	CLINICIAN	70	195-201	2023

支援困難評価表

支援困難度評価表(案)

機関名: _____

ケースNo.: _____

障害支援区分: _____

記載上の留意事項
 ・ご本人の日常の様子をよく知っている人が回答してください。
 ・保護的環境(例えば、病院に入院しているような状況)ではなく、例えばパート等で単身生活をを行った場合、又は入所や在宅で家族と同居であっても支援者や家族がいらない状況での状態を想定して
 重症度(本人への影響)
 0 なし 症状が存在しない
 1 軽度: 症状の存在は感じられるが、はっきりとした変化ではなし
 2 中等度: かなり負担で処理するのが難しい
 3 重度: 大きな問題なく処理できない
 必要支援の頻度
 1 軽度: それほど大きな負担では無く、通常は大きな問題なく処理できる
 2 中等度: かなり負担で処理するのが難しい
 3 重度: 大きな問題なく処理できない
 介護負担度(周囲への影響)
 0 まったくなし
 1 軽度: それほど大きな負担では無く、通常は大きな問題なく処理できる
 2 中等度: かなり負担で処理するのが難しい
 3 重度: 大きな問題なく処理できない
 介入による変化
 見守りには該当するが、「介入」には該当しないものとする。

カテゴリー	障害支援区分 認定調査項目	認定調査員マニュアルの具体例	必要支援の頻度		重症度 (本人への 影響)	介護負担度 (周囲への 影響)			介入による変化		
			支援が 必要 が 不要	支援が 必要 が 不要		ま た く な し	軽 度	中 等 度	重 度	介 入 が 不 要	介 入 が 必 要
不安	4-1	被害的・拒否的	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
	4-2	作話	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
	4-3	感情が不安定	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
	4-4	昼夜逆転	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
感情コントロール	4-5	暴言暴行	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
	4-6	同じ話をする	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
	4-7	大声・奇声を出す	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
病棟の低下・対人技能拙劣	4-8	支援の拒否	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
	4-9	徘徊	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
	4-10	落ち着きがない	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3
病棟の低下・目当識・判断力	4-11	外出して戻れない	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3	0 1 2 3

4-12	1人で出たがる	○外出する時には見守り等の支援が必要だが、1人で外出しようとするため目が離せない場合。 ○周囲の迷惑となったり、日常生活に支障が生じるような取集癖がある場合。 (集める物や方法は問わない。)	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-13	収集癖	○周囲の迷惑となったり、日常生活に支障が生じるような取集癖がある場合。 (集める物や方法は問わない。)	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-14	物や衣類を壊す	○物を壊す、衣類を破く、物や衣類を捨てる等の行動によって日常生活に支障が生じる場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-15	不潔行為	○手便(厠)など排泄物を弄ぶ、尿を撒き散らす、痰や唾を吐き飛ばす、便を触れた手で周囲の物に触る等の行動によって日常生活に支障が生じる場合。 ○風呂に入らない、汚れた服を着替えない。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-16	異食行動	○食べられないものを口にしたり、飲み込んだりする異食行動がある場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-17	ひどい物忘れ	○ひどい物忘れがあるために、日常生活に支障が生じる場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-18	こだわり	○特定の考え、物、人等に対する強いこだわりがあるために、スムーズに行動することができない等、日常生活に支障が生じる場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-19	多動・行動停止	○特定の物や人(対象が明確でない場合も含む。)に対する興味関心が強く、思いつく限り行動しつづける多動になったり、その対象にこだわって動けなくなってしまう場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-20	不安定な行動	○生活場面において、目的や意味が理解できず、行動に支障をきたす場合。 ○予定や手続き、日頃から慣れている支援者や状況等が変わることが受け入れられず、突然大声を出したり、興奮する等のパニック状態になる等、行動が不安定になる場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-21	自らを傷つける行為	○不安、恐怖、集積等にかかられて衝動的な行動がある場合。 ○自ら痛がるほど自分の体を叩いたり傷つける、頭蓋を抜く、手を切る、多量の薬を服用する等、自分の体を傷つける行為がある場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-22	他人を傷つける行為	○他人を叩く、髪を引っ張る、蹴る等、他人を傷つける行為がある場合。 ○壁を壊したり、ガラスを割ったりする等、他人を傷つける行為がある場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-23	不適切な行為	○服装や髪型が優先したり、適切な意思表示ができなかったり、判断能力が不十分だったりする等により、不適切な行為がある場合。例:急に他人に抱きつき、断りなく物を持ってきてしまう、他人をのぞき込む、急に他人に接近する。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-24	突発的な行動	○異性や子供に性的なことを言う、了解なく触る、下半身を露出する。 ○興味が強い物や人(対象が明確でない場合も含む。)を見つけたら、突然そこらへんへ走って行ってしまったり、突発的な行動がある場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-25	過食・反すう等	○過食や過飲、拒食、反すう等、食に関する行動上の問題がある場合。 ○食分が過剰で肥満的になったり、時には抑鬱気分により思考力が低下し、考えがまとまらないため、日常生活に支障をきたす場合。時に死にたいと書つたてぶりを示し、危険を防止するために誰かがそばについているなどの配慮が必要とされる場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-26	そう癖状態	○気分の高揚により、活動性が亢進し、様々なことを思いつき、次々と行動に移すが、注意力が散漫であるため、その結果は失敗に終わることが多く、社会生活に影響を及ぼす場合。時に自尊心の肥大から、他者への攻撃性が高まり、暴力的になることもあるため、社会的な対応が必要とされる場合。 ○上記の状態が繰り返される場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-27	反復的行動	○ある考えに固執し、特定の行為を反復したり、儀式的な行為にとらわれる等により、動作に時間がかかり日常生活に支障が生じる場合。例:必要以上に手を洗う、必要以上に施設を確認する。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-28	対人面の不安緊張	○風呂に入る、トイレに行くなどの行動が止まらない、繰り返す。 ○人に会うと緊張状態になる、危害を加えられるのではないかと強い不安が生じる等のため、外出等ができなくなる場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-29	意欲が乏しい	○長期にわたって引きこもり状態である場合は、「5. ほぼ毎日(週5日以上)ある」を選択。 ○行動を計画したり実行したりする意欲が乏しいため、周から言われないと何もしないでいる場合。例:一日中横になっていたり、自室に閉じこもって何もしていない。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-30	話がまとまらない	○行動を促す他者からの働きかけが効いても動かない場合。 ○話の内容に一貫性がない、話題を次々と変える、質問に対して全く無関心ない反応が返ってくる等、会話が成立しない場合。 ○自分のしたい話を一方的に相手に伝わらずにしまう場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3

4-31	集中力が続かない	○集中力が続かないため、家庭内やその他の生活の場での役割や課題を最後までやり遂げられない場合。 ○現実にはそぐわない特別な地位や能力等が自分にあると信じて、それを主張する発言。 ○本人の現状の年齢や立場などにはそぐわない、過去の状態であるようにふるまう。 ○自分の強りを認めない、注意されると怒る。(例:仕事を転々としたり、事業所・サービスを頻繁に替える。)	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-32	自己の過大評価		1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-33	集団への不適応	○家族や家族以外の社会参加の機会を拒否したり、その場においても一緒に行動できない場合。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
4-34	多飲水・過飲水	○水中毒になる危険が生じるほど、水を大量に飲む又は飲もうとする場合。 無計画にお金を使う。(生活費や真糊的なお金の管理をしない、できない。)	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
追加1		借金をする。家族・知人にお金を無心する。要求することなくかえす。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
追加2		子どもっぽくなり、年齢にそぐわない甘えや依存がある。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
追加3		自己中心的、口先ばかりで行動を伴わない。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
追加4		万引きする、盗む。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
追加5		他家や敷地に許可なく入り込む。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
追加6		止められているのに運転する。衝動的に行動するなどして危険を顧みない。	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
追加7		マナーの悪い人や日常の他者の行動に、執拗に抗議や修正を求めたり、追いか	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
追加8		食べない。(例:こだわりが強く特定のものが食べない、意欲低下により一日一食しか食べない。)	1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
追加9			1	2	3	4	5	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3

厚生労働大臣 殿

機関名 国立障害者リハビリテーションセンター
所属研究機関長 職名 総長
氏名 芳賀 信彦

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 障害福祉サービス等における高次脳機能障害者の支援困難度の評価指標についての研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 国立障害者リハビリテーションセンター・顧問
(氏名・フリガナ) 深津玲子・フカツ レイコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 5年 5月 8日

厚生労働大臣 殿

社会福祉法人
機関名 名古屋市総合リハビリテーション事業団

所属研究機関長 職 名 理事長
(名古屋市総合リハビリテーションセンター長)

氏 名 山田 和雄

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 障害福祉サービス等における高次脳機能障害者の支援困難度の評価指標についての研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 名古屋市総合リハビリテーションセンター・副センター長
(氏名・フリガナ) 鈴木 智敦・スズキ トモアツ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年2月13日

厚生労働大臣 殿

機関名 高知大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 櫻井 克年

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業

2. 研究課題名 障害福祉サービス等における高次脳機能障害者の支援困難度の評価指標についての研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 教育研究部医療学系臨床医学部門・教授

(氏名・フリガナ) 数井 裕光・カズイ ヒロアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立障害者リハビリテーションセンター
所属研究機関長 職名 総長
氏名 芳賀 信彦

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 障害福祉サービス等における高次脳機能障害者の支援困難度の評価指標についての研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 研究所 障害福祉研究部・室長
(氏名・フリガナ) 今橋 久美子・イマハシ クミコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 社会福祉法人グロー

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 牛谷 正人

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 障害福祉サービス等における高次脳機能障害者の支援困難度の評価指標についての研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 滋賀県高次脳機能障害支援センター・相談支援員
(氏名・フリガナ) 小西川 梨紗・ユニシカワ リサ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立障害者リハビリテーションセンター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: COI委員会を設置していないため)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 国立障害者リハビリテーションセンター)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年5月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 滋賀県立リハビリテーションセンター

所属研究機関長 職名 所長

氏名 川上 寿一

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 障害福祉サービス等における高次脳機能障害者の支援困難度の評価指標についての研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 所長
- (氏名・フリガナ) 川上 寿一・カワカミ ジュイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立障害者リハビリテーションセンター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: COI委員会を設置していないため)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 国立障害者リハビリテーションセンター)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。